



中筋小学校だより

校訓 ～ 強い身体 正しい心 ～

舞鶴市立中筋小学校
学校だより 6月号
令和4年5月31日発行
<http://nakasuji.maizuru.edumap.jp/>
☎ 75-0372

この度の臨時休校について、保護者の皆様には大変なご心配とご迷惑をおかけしましたこと、心よりお詫び申し上げます。また、休校期間中はオンライン授業等でいろいろとご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。今後も、新型コロナウイルス感染防止を徹底し、安全に教育活動を進めてまいります。変わらぬご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

居場所づくり・つながりづくり・やりがいづくり ～ 6月は、いじめ対策強化月間 ～



本校では、いじめのない、今日も来てよかったといえる学校を目指し、「居場所づくり・つながりづくり・やりがいづくり」を大切にしています。6月は、いじめの未然防止、及びいじめを許さない学校づくりを目指し、いじめの早期発見・早期対応につなげるとともに、**児童のよりよい人間関係づくり**に努める取組をします。未然防止の取組として、全校集会での校長の講話、道徳の授業、児童会の取組。早期発見の取組として、「いじめのない、明るく楽しい学校をめざして」のアンケート実施後、担任が児童一人一人と**個別面談**を行います。面談では、昨年度に認知した内容についても追跡調査を行います。いじめ、とりわけ「暴力を伴わないいじめ」の場合、その始まりは児童の間でよく見られるトラブルです。成長途上にある子どもが集まる学校では、ささいなトラブルが生じます。遊びの中でも「そんなつもりじゃなかった」という暴力(蹴る・たたく)や暴言で友達を傷つけてしまったという事象が実際に起こっています。「いじめはどの子どもにも起こりうる、どの子どもも被害者にも加害者にもなりうる」ということを踏まえ、児童をいじめに向かわせないために、「いじめは人間として絶対に許されない」ことの指導の徹底と「人の痛みを自分事として捉えられる」また、「多様性を認められる」豊かな心をはぐくみます。

子どもたちの間では、様々なトラブルも起こりますが、そんな日々の生活を通して、自己理解や他者理解が深まってきています。今後も関わり合いを通して、「居場所づくり」「つながりづくり」「やりがいづくり」を充実させていきます。今後ご家庭や地域でお気付きになることがありましたら、すぐにお知らせいただくとともに、学校と連携してご支援いただきますようお願い申し上げます。

「レジリエンス」を育む



教職員の研修の場である京都総合教育センターから発行された5月のリーフレットの中身です。『レジリエンス』聞き慣れない言葉です。意味は「自発的治癒力を意味し、一般的に「精神的回復力」「耐久力」などと定義される」そうです。つまり、苦しいことやつらいことがあった時に、自分自身で心を強く保ち、目の前の状況にしっかりと適応していく力ということです。大学生を対象に調査を行い、この力は果たして教職員のどんな関わりが大切なかが明らかになったという内容でした。大切な関わりは2つ。**「親身に話を聞く」**ことと**「丁寧に関わる」**ことだそうです。

結論をリーフレットから引用します。

大学生の意識調査から、教職員の**“親身な関わり”**が子どもたちのレジリエンス（特に「自己への信頼」）の醸成につながるわかりました。「親身になる」とは、“親”のように、そして“身（身体）”をもって全ての感覚を総動員して関わり合うこととも言えるのではないのでしょうか。その親身な関わりにより、子どもは尊重されていると感じ、自分を肯定的に捉え、また他者を信頼することにもつながっていくと考えられます。

ICT化が進み、物理的に時と場を共有しなくてもつながることができるようになりましたが、折れない、しなやかな心を育むためにはICTでは補えない関わりがまさに鍵になると考えられます。決して特別な関わりではなく、「親身に話を聞く」など、きわめて日常的で、温かみのある関わりの積み重ねが大切だと言えます。

この内容を教職員でしっかり共有し、子どもたちの将来にかかわる大切な力を育むため、**当たり前のことを当たり前**に、確実に実行していきたいと思えます。6月もどうぞよろしくお願いいたします。

※『真玉 白玉』はお休みさせていただきます。

校長 亀井 敬介 教職員一同